

## 開会挨拶

開催日：平成19年7月14日

平尾光司

(平尾) ご紹介いただきました専修大学の平尾でございます。今日は台風接近の荒れた天候の中を、多数ご参加いただきまして誠にありがとうございます。私ども専修大学の都市政策研究センターでは、2004年に文部科学省から「イノベーション・クラスター形成に向けた川崎都市政策への提言」というテーマで私立大学学術研究高度化推進事業という選定を受けました。それから3年間研究活動を行ってまいりまして、あと2年間で取りまとめの作業に注力しているところでございます。この間、川崎市の市役所、川崎商工会議所、川崎市産業振興財団、ケイエスピー、川崎信用金庫、などの関係機関をはじめとして、さまざまな川崎市の関係の方々に我々の研究調査にご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

教育と研究というのは従来の大学の使命でございましたけれども、これからの大学はそれに加えて、社会貢献とくに我々は地域貢献が重要になっております。そういう意味で専修大学は早くから、KSパートナーシップ、つまり川崎・専修パートナーシップということで、川崎市と多面的な協力関係をつくらしていただいております。学生のインターンシップの受け入れ等をはじめお世話になっております。我々としましては、川崎市の新しい発展方向に、専修大学としての研究支援を提供させていただいてお役に立ちたいということで、このプロジェクトをはじめたのでございます。

そして、我々の知的支援をご提供するだけではなくて、我々自身にとって、川崎市は社会科学の研究、産業論、都市論、地域論、情報組織論、地理学等、学問調査の研究対象として、川崎市は非常に豊かな可能性を持っているということがあります。我々としては地域に貢献するだけではなくてむしろ、我々が川崎市を通じて、現代の日本あるいは世界を調査研究する機会を与えていただいているということでございます。私どもの研究は、専修大学の中の22名の教員と、それから助手あるいは博士課程の学生と、それから川崎市の財団をはじめ民間の研究機関の方18名、総勢40名の研究員でこの都市政策研究センターは構成されております。そしてこの40名の研究メンバーを四つのユニットに分けて研究を進めております。第一のユニットはマクロ経済研究ユニットです。このユニットは川崎市のマクロ経済あるいは市財政から川崎の問題を分析しています。今日はそのユニットの代表で、田中隆之教授から、マクロ経済からみた

川崎市の地域経済の報告をしていただきます。それから二つめのユニットが、産業ユニットです。川崎市の産業構造・企業を調査しています。臨海部の重化学工業地帯から、内陸部の電機機械産業あるいはソフトウェア産業それからまた素形材産業、中堅・中小企業、ベンチャービジネス調査を進めてきております。今日の講演もユニットのリーダーの宮本教授に報告をしていただきます。

それから三つめのグループが都市基盤ユニットです。川崎市のインフラをどのように充実させていくのか、というテーマで研究を進めているグループです。今日はこのグループの代表として福島教授に川崎臨海部の再編への地域的課題ということでご報告いただくことになっております。

最後は国際比較ユニットであります。川崎市を国際的に位置づける。都市のグローバル間の競争の中で、川崎市のポジションはどのようなポジションかということの研究しております。その成果を望月教授から都市競争力分析、川崎市の国際的競争力課題ということでご報告をさせていただきますということでございます。

我々のこのような四つの研究グループ、ユニットの研究成果を、ちょうどプロジェクトの折り返し地点が昨年でございました。折り返し点の成果を、皆さんのお手元でございますような『川崎都市白書』というかたちでまとめました。そしてあと2年間の残された我々のプロジェクトをどのように最終の提言としてまとめていくか、ということをして、中間報告をさせていただいて、皆様方のご意見をお伺いして今後の2年間の調査研究を進めていきたいということでございます。

以上、研究センターの代表者としてのご挨拶と今日の公開講座の趣旨をお話させていただきました。